	上
	江
	洲
	家
	文
	書

12	11	1	.0 9	8	7	T 6	5 5	4		2 9	1	JI. 21	Œ.
琉球国中山御世鑑抜	牌(写)牌(写)		世 斉 主 を 上 古 音 ま を 上 古 も に に に に に に に に に に に に に	美済氏家譜 (写)	父母記	美彩氏世系図 (家譜)	美済氏家譜系	美済氏家譜系図支流			美済氏家譜	書 名	Shr .
4%	th 2		上江洲親雲 ※	西平親雲上	上江洲親雲			雲上 濱川親□□	久米島具志	親雲上江洲	前地頭代石	編著者	-
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	他でき	没一袋		他を	袋	袋	列	袋		袋	袋	装工	1
			· -	-	-	_	-	_	_	_		- H	
五	二四	八		二九	八(墨付のみ)	六	=		士七	六四	五	丁	
九・三×一三・三	○・四×二八・○	î.	四 〇 × 二 五		五×一七		二六·五×二〇·〇	二六・五×二〇・〇	二六·九×二〇·〇	11	二九·二×二二·九	法量	
	H	韵	同				has little					著者・版元	
		一四年				- 乾隆一七年	年順治一七年~乾隆一三	順治一七年~乾隆九年	道光元年極月の書写	同治一一年九月申吉日	万曆八年~乾隆二四年	時代・年代	
•	<i>-</i>	本	原写本	写	原写本	原写本	原写本		原写			刊	
来記並御双紙抜書/琉球中山御世悠紙に「乾隆五拾(申十二月/君南風中内に「君南風之始相伝記」とある。東	四世まで 順治六やの履歴書		うに子孫へ書き残した家記の仕次。恩義ある家へ報恩の礼を欠かさない	①元祖~五世智源(上江洲親雲上)		①五世智章~八世智鑰	世格長次の三		上、山里親雲上、濱川親雲上に、※乾隆一九年二月吉日 上江洲	屋敷之事、墓所之事、仕明田之事な 屋敷之事、墓所之事、住明田之事な	<u> </u>	写 備 考	
			Table Label A	(元) (元	琉球国中山御世鑑抜 袋 一 二五 一 一 三二×一五・五 写本 琉球国中山御世鑑抜 袋 一 二 二 二二×一五・五 町治二年 写本 東京にや家譜化次控位 会の 四 二二×一五・五 町治二年 写本 中(写) 世済其美」由緒書 上 江洲親雲 袋 一 八 一 二二×一五・五 町治二〇年 写本 東本 一 二二 一 一 一 一 「二十・五・一九・五・一方・五・一方・五・一方・五・一方・五・一方・五・一方・五・一方	琉球国中山御世鑑抜 袋 一二五 一九・三×一三・三 乾隆五〇?年一二月 写 琉球国中山御世鑑抜 袋 一二五 一九・三×一三・三 乾隆一四年 写本 大分記 上江洲親雲 人(墨付のみ) 二五×一五・五 明治二〇年 写本 大分記 上江洲親雲 人(墨付のみ) 二五×一五・五、一十五、一十五、一十五、一十五、一十五、一十五、一十五、一十五、一十五、一十	一	京 京 京 京 京 京 京 京 京 京	3 美済氏家贈系図支流 川間切□□ 袋 二二 二六・五×二○・○ 順治 七年 乾隆九年 写本 6 大年 1 大	2	2 家記(父母記) 短之上江洲袋 一 二五 一 二 二 二 二 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	1 美済氏家譜	3 元祖以来善行記 2 家記 (文母記) 1 三 1 三 1 元 × 1 □ · ○ 2 家記 (文母記) 2 sa (公母記) 2 sa (公母記)

	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
	写取申候写取申候	山林真秘	服制	(惣下知人辞令書)	(御検者下知書)	公事帳 (写)	模合約定書	御物奉行令達(写)	指南廣義一巻	四本堂家礼	王代記并唐年号
江洲にや・ 上 川	洲親雲上	(蔡温)							則 琉 珠 程 順		
-	袋	他 そ の	他その	折	袋	袋	袋	袋	他 そ の	袋	他その
						_		_			
	Л	1111	五	_	111		五				= = = = = = = = = = = = = = = = = = = =
	二三·五×一七·四	一九・三×一三・五	0 1×r 1	三八×二六·五				•	二四・五×一五・一		一七·五×一三
上江張以			上(西銘村)								上(西銘村)
	咸豊二年壬子四月		雍正六年(一七二八)	亥	乾隆一四年		光緒一二年	王府時代	の根拠は、序文による。 原刊(注)時代、 年代 康熙四七年(一七〇八)		丙辰四月写 丙辰四月写
	写	写	写						刊		写
意老人共相尋候処、節々気卦大方如斯書付を以首尾可申上旨被仰付、奉得其末尾:右書当島二唱来候寒さ数委細	の内一冊 曹が七丁目にある 冊数:三冊合冊 曹が七丁目にある 冊数:三冊合冊	ついて検討する必要あり。 たことにより、二本となった。内容にたことにより、二本となった。内容にあり、上江洲家文書の同書が確認されたことにより、二本となった。内容に書館宮良殿内文庫蔵本一本(写本の書館宮良殿内文庫蔵本一本(写本の表紙墨書「山林真秘」 朱による句点表紙墨書「山林真秘」 朱による句点	評定所よりの通達。 を当り事・唐船対応の部分も多い。 にきまり事・唐船対応の部分も多い。 服制 (本家方之服制) 冠婚葬祭を中心	人に伝令する書状。前地頭代上江洲親雲上を間地惣下知	(国王の裁可)あり。 島役人の勤務年数変更の件口上言上 検者与世山親方より在番あての下知。	芭蕉紙	芭蕉紙	た令達集の写 芭蕉紙 御物奉行より諸間切両惣地頭へ下し	同版と思われる刊本がある。 同版と思われる刊本がある。 「指南廣義」「雪堂彙輯」と全 版心に「指南廣義」「雪堂彙輯」と全 版心に「指南廣義」「雪堂彙輯」と全	虫損多し。	挙し年間数記述。 基本情報を抜き書き唐年号は年号列 王代記 王の名、王位についた年など

32	31	30	29	28	27	26	25	24
(仕明田手形案文)	文) 住明手形案	仕明手形扣	雑記上	長 人米具志川間切所遺賦	耕農検地之次第	田方取立帳御支配御竿入帳票畠成	名寄帳 久米具志川間切西銘村	御日雨向に御廻り記之
不明	不 明	登之 整永 筑	白朝堯	世山親方 人米具志川		り り り 大 米 具 志 川		山里親雲上 之·地頭代 濱川 筑 登
袋	袋	袋		袋	袋	袋	袋	袋
	-	=						
五	九(墨付七丁)	(上)八丁(墨七丁)、(下)十丁)	四四		八八	ĮΣĽ	<u>四</u> 四	九
二三·八×一六·六	二三・七×一六・六	(上) · × 大·大、 (上) · × 大·大、	二四×一六·八	二四・七×一九・二	二五·五×一九·一	二五・○×一八・四	二三·五×二〇·二	二六・五×二〇・〇
	不明	盛永筑登之	白朝堯					親雲上 登之・山里 里 現 第 川筑
不明		(上)同治一二年、	子四月	乾隆三四年已丑七月		申 八月	天保一二年一二月作成	乾隆四年
写	写	写					,	
に同じ。 に同じ。	形壱冊」とあり。形を冊」とあり。	第多し。 判型の異なる冊子 (二冊) が合冊にさ 対、仲地村、太田村、兼城村における 土地(田のみか)の原名と等級(上・ 中・下等)、石盛、仕明日御手形扣」と は、中トビラに「仕明田御手形扣」と は、中トビラに「仕明田御手形扣」と あり、ほぼ、(上)と同内容。「手形」 の有無を付札で貼付す。朱筆による追 第多し。	①四民(農・工・商・士)について 他	記名がある。 記名がある。 記名がある。 東雲上、ならびに在番松田親雲上のり、日付は寅五月とあり、大蔵濱川にや、首里大屋子上江洲筑登之地頭代山や、首里大屋子上江洲筑登之地頭代山や、首里大屋子上江洲筑登之地頭川に	に分れている。 居之次第・畠方試竿之次第・高作之法 居之次第・畠方試竿之次第・高作之法	の竿入帳。芭蕉紙。西銘・大田・兼城・嘉手苅など各ムラーが楽・具志川・仲地・山里・上江洲・	バラの状態。のもの。各葉に割印あり。綴じ紐なくこの種の名寄帳としては現存する唯一	川筑登之 地頭代 山里親雲上御大掟上江洲にや 首里大屋子 濱以上 乾隆四巳末三月 久米具志川内之由申出候、此旨□様御□成奉頼候

42 扣御	41 諸 仕	40 仕	39 仕	38	37	36	35	34	33
扣御用布綿子莚代上一件	諸上納之品々払記仕明地銘々江叶懸取帳	仕明請地帳	仕明請地帳	仕明請地帳	(仕明田願出張)	手形表田方取立帳戌年上江洲親雲上仕御	□ 田方原々まし数取立帳	(仕明)	(任明)
不明	上江洲智記	や 第	り濱川 第四人)よ よ	雲上宛 より濱川親 京等四人) 親親	不明	力?) 親 雲 上 上江	親雲上	著・嘉手苅	不 明
袋	袋	袋	袋	袋	袋	袋		袋	
								-	
二〇(墨付一七)	一七(墨付七丁)	111	Ξ	111	111	11)		五(内墨付四)	11[11]
二六·四×二○·四	一三·三×三七·九	二三・四×一九・四	二五×二〇· 1	•0 ×¢•	二七・一×一九・一	二六·六×一九·六			三三、
不明	上江洲智記	高所	高所	高所	上か?	不明	上	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	不明
道光弐拾八年十月	明治二六年八月	同治十三年十一月	光緒元年	光緒元年十月	年欠(卯十月廿七日)	道光拾八年戌		(年欠) 一一月	康熙一九年~
写	写	本写原	本写原	写 原	写	写		写	写
子莚代上げを要請久米島からの年貢未進等に付、御用綿	他に上江洲智久等ありを記し、外を式円と豚壱疋による支払い等あり、米壱石弐斗五升の内、米五斗起/右の米壱石弐斗五升の仲が楽五斗起/右の米・大き石弐斗五升の中、米五斗起/右の中上江洲の仲村渠智/かんきやまら叶	したもの「法司之印」あり。地として西銘村高良の濱川にやに許可田にや、田方弐升三合三勺三才を仕明田にや、田方弐升三合三勺三才を仕明田にや、田方弐升の内、仕明人大田めさし平拾弐歩四升の内、仕明人大田めさし平せりきやく原竿迦より成□(下ヵ)田せりきやく原竿迦より成□(下ヵ)田	印」あり。 村の濱川にやに許可したもの「法司之村の濱川にやの土地を仕明地として西銘差平田にやの土地を仕明地として西銘当式歩、六合六勺七才、仕明人大田目田弐歩、六合六勺七才、仕明人大田目西銘村のふそくの前原竿迦より成、下	は大田目差平田にや。 は大田目差平田にや。 は大田日差平田にや。 は方の代明地高壱升六合六勺七才を田方の仕明地高壱升六合六勺七才を田方の仕明地高壱升六合六勺七才を田方の仕明地高壱升六合六勺七才を田方の仕明地高壱升六合六勺七才を	あり。 他は「同村譜西」た原沢」と原沢」、他は「同村譜西」た原沢」と終図二点を含む、一つは「西銘村山口	江洲村の分あり。 田の面積と石盛りを記す、西銘村と上	但七まし 外荒地 ・・・・・。 仕明人脇文子/ 仕明手形壱さつ/ 但 御手形表あし川原小名はけたげ原 上江洲親雲上/仕明手形壱さつ/	けたけ原小名かんじまし原仕明人」記載形式は次のごとし、「御手形表は	同二八年等の表記あり。の作、石盛の件、途中より渡唐の件等の表記あり。

52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
註 四卷孟子集註四卷 《四書》大學章句一句	農業書	農業全書(天明再版)	上納米本立帳	諸毛作之仕様留	唐茶製法伝授書	先年銘々江借渡米利	立帳 公長 名 工 借 渡 米 元 取	(諸地上納配分帳)	納帳并諸地頭作得帳)
山)	(写者) 屋				西平親方	上江洲智記	上江洲智記	不明	雲 山 取 上 上 之 子 発 村
他その	袋	他 そ の		袋	袋	袋	袋		袋
<u> </u>	_	八	_	_	_				
	1 11		0.1] 111	三八(墨付三五)	五二(墨付四六)	二四	四五
二六·五×一八·一	一七·五×一三·〇	二·五× × 六	二四×一八	二大×110	一四·五×二七			一六·七×一九·八	一 六·七× 一 六 五
	上(著者?	瑞錦堂				上江洲智記	上江洲智記	不明	
	不明		嘉慶一九年		雍正一〇年頃	明治三〇年七月一七日	明治三〇年七月一七日		乾隆三○年八月
刊	写				写	写	写	写	写
冊/佐土原藩蔵版」 和刻本封面「後藤先生點/學習館図書全十		巻十一 □画一九×一三·五 有(三、七、十巻欠) 巻一 (三事総) ただし十一巻以下は不明 巻二 (五穀之類) 巻三 (菜之 類)※三 巻は表紙あり 巻四 巻五(山野菜之 巻は表紙あり 巻四 巻五(山野菜之 巻の 巻の 巻の 巻の 巻の			松羅茶・武茶夷などの銘柄が見える。唐茶の栽培法についての農業技術書。	解け、バラけている。の数量の未記入部分あり、トジヒモがの数量の未記入部分あり、トジヒモが取立帳。ただし、人名を記しながら米取立帳。ただし、山里村の者からの	五升起。 五升起。 立介場合、未申の元米が五斗起でその利米(申酉乙年分の利米が五斗起でその下水が五斗起でその下の立て帳である。 西の平川の当間の取立て帳である。 西の平川の当間	て記載されている。上納、惣御地頭御遣未米等の項に分け上納、惣御地頭御遣未米等の項に分け上納、諸おゑか地上納、百姓持ち接司掛上納、惣御地頭所上納、仲地里	全体は、三つの部分から構成される。全体は、三つの部分から構成される。第三は、「久米具志川間切諸地頭作得帳」は、「久米具志川間切け、単二、一次、第三は、「久米具志川間切け、一切が、大田村、山里村、仲村渠村、嘉手苅村、大田村、山里村、仲村渠村、東城村、西銘村、山里村、仲村渠村、東城村、西銘村、山里村、仲村渠村、東城村、西銘村、山田村、神村渠村、東域では、三つの部分から構成される。全体は、三つの部分から構成される。

- CC	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53
66仮題(家	書 大清同治十				大清同	1			(易畫)	選擇記	選擇記	御教条	-
(家中吉凶占い)	1十一年選日通	大清同治九年選日通書	大清同治八年選日通書	大清同治七年選日通書	治四年選日通書	大清咸豊四年選日通書	大清咸豊四年選日通書	玉匣記通書廣集二巻				(残欠)	増訂小學體註竣雪觧
不明	首里王府	首里王府	首 里 王 府	首里王府	首里王府	首里王府	首里王府	清 • 王 相					
他その	他 そ の 一	他その一	他その一	他その一	他その一	他その一	他その	他 そ の —	他 そ の 一	他その	他その一	袋	他 そ の
									数三	五三	六二		
									数文書仕立)	三以下欠	二(中白紙七)	Annual Annua	
二七·八×三九·〇	二五·五×十四·二	二五·五×十四·二	二五·五×十四·二	二五·五×十四·二	二五·五×一四·三	二五·五×一四·二	二五·五×一四		二七·五×二〇	二二·五×一四	二六×二八	二七×二〇	二五×一五·三
不明									明)		上江洲智循		
不明	清同治十一年(一	清同治九年(一八七〇)	清同治八年(一八六九)	清同治七年(一八六八)	清同治四年(一八六五)	清咸豊五年(一八五	清咸豊四年(一八五	王相自序刊 (一六八四)	光緒一二 (一八八六)			雍正一〇年	清刊
刊	一八七	<u>Ö</u> 刊	九刊	<u>八</u> 刊	五刊	<u>芸</u> 刊	刊	刊	写	写	写	写	刊
家中の運気・吉凶を占ったもの。際所に火(ヒーダマのことか?)が出	同治十一年(一八七二)の暦	同治九年(一八七〇)の暦	同治八年(一八六九)の暦	同治七年(一八六八)の暦	同治四年(一八六五)の暦	展豊五年(一八五五)の暦		対面「玉匣記通書/廣集 寶仁堂蔵 対面「玉匣記通書/廣集 寶仁堂蔵	カード□K−九の易書と同系の類→易学、暦書、占卜、日取、民間分類→易学、暦書、占卜、日取、民間の対□□□江洲智□カード□K−九の易書と同系の対域・場が、関係の表別・ののとは、対して、日、のののとは、	有(AK-八) 表紙欠、裏表紙欠 同系列本 他2冊表紙欠、裏表紙欠、同系列本 他2冊	(小屋の書)を使用。 分類→易学、暦書、占ト、日取、民間	}	表紙・封面欠 小学集註の註釈書

78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67
初	吉	家	運	早	卦	掛見	書 仮 題 群	仮題	仮題	仮題	仮題
初運性判断書	吉凶判断書	家人吉凶判断書	運性判断書	吉凶占書	卦易判断書群	卦易判断書群	群(
断	書	判	書	百	書	書	群その他	(吉凶占い)	(お図出り)	(吉凶占い)	(吉凶占い)
青		書			杆	矸	基	(パロ	(でロ	(バロ	白い
							立				
加 扇 动物			科学 当台	2 =			上海一部占组体		不	上夏	- 時
三上嘉			主皇	で変			点無無無	不明	不明	一	上 新
他三 雲上 その 親			雲上 前嘉手苅親	吉濱にや、			(中国里之子 (大親雲上 (四元) ・ 高 (四元) ・ 長 (四元) ・ 長 (四元) ・ 長 (四元)			上	上 嘉手苅親雲
他そ	他そ	他そ	他そ	他そ巻	他そ	他そ	他その	 折	折	芸 折	世そ
の	の	Ď	の	の・	の	の	0				
四	四		六	六	五.	四					
四	四	_		六	五.	四	<u> </u>		-		=]
							O				
								i			
=	=	=	=		約	約		=	=	=	=
二六·三×三八·四	二六·四×三七·四	二六·五×三七·五	六·玄×三九·〇	一八·○×不明	約二六・○×約三二・○	約二六·五×約三二·○		二六·五×三八·〇	六·二×三九·〇	二六·八×三八·玄	二八·一×三九·〇
$\stackrel{\simeq}{=}$	×	× =	×	× 丕	O X	五×		×	× = 1	×	×=
点点	七三四	七五	九.	明		200		Ô	i	五	Ò
					Ö	Ō					
雲前				吉			and the state of t	不明	不明	上嘉	上嘉
上嘉				吉濱にや				明	明 	手苅	手 苅
雲上 前嘉手苅親				や						上 嘉手苅親雲	上
450				不明				不明	不明	不明	不明
				明				193	199	193	197
Til	Titl .	iir:		ntre	山山	1120	工门	刊	刊	刊	刊
刊	刊	刊		刊	刊	刊	刊				
一 年	の吉門	運家占内	子孫	つ病い気	立①と墓	判①斯男	る。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 である。同治一 と、 である。同治一 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	の己	病気	母親	の理①年由財
間の	侵判での	景芸	子孫の運気判断	ついての吉凶判断。病気が好転しないな	移立	子	前が浜事る五親墓る一川	親申の長	の母	のそ	のと産
家	対大が	審	気	吉転	出とい	墓生	件是 (に また)・ (に また	運用	親の	の年	気後数吉の度
吹	とかたよ	放者	断	判な	一次	世 判断	とは上。た、客井に二里に上上	吉前	運	の選	図書が
年間の家族員の運性判断	の侵入 吉凶判断犬と小鳥の鳴声 門外での犬がたち鳴したこ	有 之		断た	立と移墓と近隣の不幸続出に①墓仕立と移骨の吉凶判断	遺②	曹崎青行門 ∠里普一里青 也小別墓房 展里 曹年之五	判	病気の母親の運気吉凶判断	母親のその年の運気吉凶占い	にいったり
性 判	鳴った	候付		めに	辛凶続到	所養の子	一分紙三巻と之二の子点の子点である。 全人表面にま子供二親高	断苅	判	図	初②を
断	アこと	家夕		7	出に一部	判断 ③墓地仕立場所の判断 ① 男子出生判断 ②養子の家屋	書五点高志武領 書面」(朱書)に 書加」(朱書)に 書加、一年の『家記』の「二 同『家記』の「二 同『家記』の「二 同『家記』の「二 同『家記』の「二	雲上	断	い兄り	(ウンターン) マンカマン (カン) (カンカンカン) かんしゃ
	の侵入 ちょうしょう あんしゅう おり おり おり はんしょう あんしょう あんしょう あんしょう おいまい かんしょう はんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	運占吉凶 家内ニ不審成者有之候付家宅人ノ総		ついての吉凶判断。病気が好転しないために、その原因に	立と移墓と近隣の不幸続出について①墓仕立と移骨の吉凶判断 ②墓仕	場所の判断・④妻の家督相続	ま型に は、一点)・仲里里之子親雲上(四点) である。同治一一年の『家記』の「二 である。また、同『家記』の「二 である。また、同『家記』の「二 である。また、同『家記』の「二 である。また、同『家記』の「二 である。また、同『家記』の「二 をある。また、同『家記』の「二 基連川墓とあるのがそれ である。また、同『家記』の「美 とあるのがそれ である。また、同『家記』の「美 というで表 というで表 をあた。 本行墓三所修甫一件ニ が「是者はな崎小けんさく三ヶ所 をあた。 本行墓三所修甫一件ニ が「是者はな崎小けんさく三ヶ所 をあた。 本行墓三所修甫一件ニ が「とあるのがそれ である。 本行墓三所修市一件ニ が「と書して、高志 本だ。 本である。 本行墓三所修市一件ニ が「と書して、高志 本であた。 本である。 本である。 本である。 本である。 また、同『家記』の「主 をあた。 本である。 本である。 本である。 本である。 また、同『家記』の「主 をあた。 本である。 本である。 本である。 本である。 本である。 本である。 本である。 本である。 また、同『家記』の「主 本である。 本であた。 本での。 本であた。 本であた。 本であた。 本であた。 本でか。 本であた。 本であた。 本であた。 本であた。 本であた。 本であた。 本でる。 本であた。 本であた。 本であた。 本であた。 本であた。 本でか。 本で	の母親の運気吉凶判断己月申辰月に前嘉手苅親雲上の病気			の年の運気吉凶占い。(初ウンチ)理由と今後の吉凶占い。②家中人のそ理由と今後の吉凶占い。②家中人のそ
	所す	総		四に	て是仕	④妻 質相続	あ ヶ 月 件 で 白 尚 「 点 祝 た 所 之 ニ 墓 れ 書 志 美)雲	気			その

93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79
吉凶判断書	吉凶判斷書	吉凶判断書	吉凶判断書	吉凶判断書	吉凶判断書	吉凶判断書	吉凶判断書	吉凶判断書	吉凶判断書	吉凶運気判断書	吉凶判断書	吉凶判断書	吉凶判断書	個人運性判断書
卷	他その	他 そ の 一	他 そ の 二 二	他その二二	他その三三	他 そ の 一	他 その 一	他 その	他 その	他 その	他 その 一	他 その	他 その	他その二二
一五·九×不明	二六·一×三七·五	二七・〇×三七・九	二三:•九×三二:-	回・ × •四	:::::::::::::::::::::::::::::::::::	二六·八×三八·五	二六·四×三八·一	二六·一×三八·一	二六·六×三八·〇	二六・二×三六・七	二六・二×三七・七	二六·四×三八·五	二六·五×三八·〇	二六·三×三八·〇
	酉年卯月巳卯日	酉年卯月巳卯日	大正九年三月二四日	辰正月二四日 (一九一六年) 大正丙	己未年八月二三日	己酉年								
が、虫の一	刊での判断が真中から線	刊 日大田の	刊 あり。 霊火の		刊 の理な家吉	刊 載吉が夫 さ凶出地 れ判た頭	刊	刊ての吉	刊を均す間	刊気判断	刊 吉田屋 子	刊間の運	刊とに対	刊①女子
が、虫喰がひどい上に、くっついておの吉凶判断が一巻にしてつづられいる	Eor Military Control である。田田では、一つの事についる。田川断(②嗣配されている。田川断(②嗣できかの占判断(②嗣には、一つの事につがひかれ、二つの事につがひかれ、二つの事につ	日大田ニテ御存知」とある。 家中の吉凶判断 末尾に「酉三月一一	あり。 易理による判断。後半に判断結果記載 霊火の出現による家中の吉凶を梅花心	判断結果の記載あり。	り。 理による判断。後半に判断結果の載あ 本家吉凶判断。①観音御籤②梅花心易	載されている。 世別所させた。後半は判断結果が記 が出たと人々がいったので、家中運気 が出たと人々がいったので、家中運気 大地頭・嘉手苅親雲上宅の隣所で火玉	断。 屋敷内の不審な物音についての吉凶判	ての吉凶判断。 屋敷内で不審な物音がしたことについ	を均すことについての吉凶判断。 北谷間切野国村六五番地の大久廻山	気判断 ②家人の運 ②妖怪火に付吉凶判断 ②家人の運	①男子松の病気の吉凶判断 ②山里	間の運性判断昨日晩の出火の吉凶と家族員の一年	とに対する家人の吉凶判断	子かまと・男子樽 運性判断 ②女子牛・女

10	05 104	10	03 10	02 101	100	99	98	97		05	
务	御祭文	多							月 96		94 帳 _金
	文		後属が支	御祭文	御祭文	延命□経	海上安全ふだ	家内安全ふだ	片) 二省	(「斉(番)くご)の所が願文(病気快復)	(墓修甫細工夫取立
4th	そし他そ	44.	7 114	th. w						上江洲親雲	
他	りのの	他	そ他・	そ 他その		枚他そ 物一の	枚他そ物一の	枚他そ物一の		他その	袋
					_ =	_		_	1 -		
											六
二八·五×二二·二	三五・三×二九・○	二六·七×二四·五	二七·〇×二九·二	二八・五×二六	三八·玄×二六·六	一六·五×三·八	三二・三×六・五	三二·三×六·五	② 三五·五×三五 五×三五 五×三五	二七·〇×約三〇·〇	二四·六×一七·〇
上江洌仁屋	上江洌親雲	蒲戸	上,京村,		盛永筑登之					上上江洲親雲	
上江洌仁屋 光緒元年一一月二四日	同治八年九月一三日	同治八年	光緒七年一一月六日	光緒元年	同治八年九月一三日					一八七一)	咸豊 九 年
原写本	原写本	原写本	原写本	原写本	原写本					刊	刊
江冽仁屋 当蔵一六 上	例雲上	九月十□日		当歳三十八大田掟 盛永筑登之 父上江洲親雲上の三年忌の祭文 嫡 光緒元年乙亥年十一月二十四日 亡		全文) 会会学離心 たて(以上念念徒心□ 念念学離心 たて(以上佛法僧縁 常楽我浄 朝念観世音佛法僧縁 常楽我浄 朝念観世音 南無佛 與佛有因 與佛縁観世音 南無佛 り類:仏教? 延命□經宗教関係 分類:仏教? 延命□經	内安全のふだ有	宗より写す※同系の航海安全のふだ有秘/諸難錯除/息災延命祈所、法華り(阿観音の種子)入佛千手観世音尊り(阿観音の種子)入佛千手観世音尊宗教関係ふだ □:キリーク梵字のあ		をさせたことが記されている。 のもの。時よたに盛永の当年運気判断 上江洲盛永の病気快気を祈願した時 火神御前と観音御宝前に対して男子	た時の細工夫取立帳。 応り開ける状態にない。 の基を修復した時の細工夫取立帳。 の基を修復した時の細工夫取立帳。 の基である、はな崎、小湊原、けんさく原の三ヶ所の墓を修復した時の細工夫取立帳。

120) 119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106
ア		御案内文	祈願文	奉祈	御願文	願文	願文	御事分文	焼香日記	御願文	祭文	祭文扣格護之事	亡父周年忌・・・	祭文
上江洌親雲	願人夫地頭	上江洌親雲	夫地頭 手苅親雲上		盛永筑登之	手苅親雲上 素	上江洌智綱							
折	折	折	折	折	折	折	折	他 そ の	他その	他 そ の	他 そ の	他その	他その	他 そ の
Ξ	二六	_				_					五.	五.	1	→
								t	Л				1	1
二七·四×三八·〇		二七·四 ×二 	二七・○×不明	二七·二×三五·八	二六·二×三五·〇	二七·五×三八·〇	二七·五×三六·五	二七·五×一九·五	0.011×1.4t11				一三·三×三九·二	二六·八×不明
										智元 紀·上江 洌 上江 洌 智			盛永筑登之	
光緒十一年				咸豊二年	光緒三年	光緒十三年	光緒十一年	同治一○年九月	道光三年	大正丙辰・昭和五年	光緒一一年	光緒一一年九月一一日	光緒元年乙亥十一月	同治八年
原名	写 原 ²	本	原写本	原写本		原写本	原写本	原写本	原 写 本	原 写 本		原写本	原写本	原写本
神観音御寶前			五月一○日 五月一○日 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	咸豊二年壬子七月一五日	二つに破れる 濃緑色紙	光緒一三年丁亥二月三日	光緒一一年乙酉四月一二日	· 頭上江洌智綱 (付属)一、御事分ヵ文 二、「維」	が揚げられる。 上(二六世)死去に付の焼香日記祭物 道光三年癸未二月一八日、上江洌親雲	本 記 黄色紙 ※仏壇の引き出しからの吉日 願人 上江洌智元 御願文三吉日 願人 上江洌智元 御願文三吉日 原人 上江洌智元 御願文三	雲上 ヒモ付 状態悪くあけられず 亡父拾三年忌御吊之祭之 嘉手苅親	文之地案 (表紙·朱書) 亡父十三年忌御弔之祭	日二弔上置申候 亡父周年忌同治拾三年甲戌九月十九	亡叔母當歲弐拾八寅御生性 牛

	128	127	126	125	124	123	122	121
	扣歌壱冊	巻 漢語大和故事 四、五	漢詩(古酒讚)	· 失祖御祭二付送物取立 大正四年旧九月拾九日	去ニ付祭り物書留帳 同治拾弐年癸酉六月九	め御取払帳 雲上 妻死去ニ而諸入 素二月十八日上江洲親	御事分ヶ文・願文	願文
	盛永		久朝常 喜舍場朝 下渡嘉敷 京志助忠、			山里親雲上	上江洌親雲	
Name of the Control o	袋	他 そ の	軸他そ掛の	袋	袋	他その	折	折
	_	=	_	_				
	=======================================	巻約二九 九 中		六	ŧ	四	四	1
	=	中 五 二		=		三三	11	=
	二三·八×十七·四	二 五 × 一 六	六四・○×□□・○	三三·五×一二·五	元・〇×一二・〇	三宝×一〇	二六·八×五七·〇	一六·四×三七·七
		丁) 他 (洛陽二 (本科 (本科 (本科 (本科 (本科 (本科 (本科 (本科				山里親雲上		
	咸豊九年	年刊後印字末(一六九一)	明治二四年	大正四年	同治一二年	不明(未年)	同治五年	光緒十一年
40.00	写	刊		刊	刊	刊	原写本	原写本
このめをにてくえば□もわかゆくこゝ ふ心は淋しからん 朝範」「遥な米の がの国をわかれてゆかは嬉しきか思	冊/盛永記」とある。 紙に「咸豊九年己未仲春吉且/歌壱 都都逸形式のうたをあつめたもの。表	全五巻中一、二、三巻欠 漢語大和故事四巻、第五巻の計二冊 両本とも事第四巻、第五巻の計二冊 両本とも事第四巻、第五巻の計二冊 両本とも事第四巻、第五の終に以下の文有 洛陽 一条通堺町四○入丁上平左衛門 元条通堺町四○入丁上平左衛門 元条通堺町四○入丁上平左衛門 元 下級四字未歳孟□吉辰 □江府□木橋禄四字未歳孟□吉辰 □江府□木橋禄四字未歳孟□吉辰 □江府□木橋禄四字未成孟□吉辰 □江府□木橋禄四字未成孟□吉辰 □江府□木橋禄四字未成孟□吉辰 □江府□木橋禄四字未成孟□古長 ○ 本語 大和故事四 ○ 本語 大田故事四 ○ 本語 大田故事四 ○ 本語 大田故事四 ○ 本語 大田故事四巻 ○ 本語 大田故事四巻 ○ 本語 大田本とも ○ 本語 ・ 本語	物。(二枚) 一○○年物の古酒を贈られたことに対一○○年物の古酒を贈られたことに対		その分量と合計	茶毘帳落丁あり	御事分ヶ文二二丁 願文二二丁	御観音御寶前 火神之御前 御霊前

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129
仮題 (好生要伝)	養生書	衛生便覧	(漢方薬処方書)	疱瘡養生秘書	痳疹傳	疱瘡傳上巻	人々朝夕可見和哥	伊呂波歌	洒論以呂波哥	田舎荘子	短冊
渡嘉敷直起				上江洲仁屋	上 諸 見 里 親 雲	上 渡 嘉 敷 親 雲	盛永筑登之				朝盛朝朝
袋	袋	他その	袋	袋	袋	袋	袋	袋	袋	袋	
_	-			_	_			_		Ξ	= 0
不明	不明	九	六	10		1110	七	=======================================	五	中门四下	
										下二付	
二四·○×一九·五	一七·五×一三·五	三五× 八 八		1三·五×二〇	111×1+	二七×一九•五	二五・一×一七・二	二六·八×一九·八	二五·七×一六·八		
渡嘉敷直起		篇 肇 緒		上江洲仁屋	上諸見里親雲					出雲寺和泉	
不明	不明	道光一三(一八三三)			道光一五年	亥年八月				享保一二年	
写	写	写	-	写	写	写	写	写	写	刊	
記されている。という、おいでは、おいでは、出産後の養生方がくわしくを思いないが、好生要伝である。妊娠	る) 二七六例の病気の養生方が記されてい	書きで 道光拾四年甲午九月吉日ての情報 (禁忌等) が多い 裏紙に朱門の部に分かれる 女性の産育に関し門の部に分かれる 女性の産育に関し	芭蕉紙	ついて箇条書に記述	診断・治療・食事について解説「痳疹前保養」ほか六項目にわたり、	表紙裏に墨丸印あり。 項目に分けて治療法を解説しているり、「疱瘡発散内 之弁」まで、二〇り、「疱瘡発散内 之弁」まで、二〇	KC- KC-	御作」の教訓いろは琉歌 ※琉歌いろは歌 ※前半は教訓いろは	じまる七五調和歌。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上巻を欠く	おこそすれ 盛升」「治れる代の御風に渡らは又いかこの□をさしもかはされる代のは、

156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141
付(写) 定役願書被仰付候御書	会所壁書控	覚	覚	口上覚	案文 (前欠)	口上覚	(口上覚綴)	上真幸の跡目)口上覚(麻氏田名親雲	上賞	表題なし	口上党	口 上覚	疱瘡人禁止好物	大醫元順疱瘡傅書	(疱瘡伝)
	西銘村盛永										名 登之ほか七 か七 が 大				不明
袋	袋	他その	他その	他その	他その	他その		袋	袋	袋	袋	袋	巻	袋	袋折
_	1	1	1	_	-	_	1		1	1					-
114	五	三十	四	五.	ДŪ	二〇/二丁白紙	(白) 一丁 裏表紙	六	111	五三	五.	110	-	七	一二(数丁欠)
		二五·三×一八·五	11四·三×一大·二	二三·五×一六·八	二六·四×二〇·〇	二四·八×十八	二五·八×十八·四	二四·犬×一七·七	二三·一×一六·九	二三·四×一七·三	1[六・1]×1]〇・〇	一九×二五	二六·三×不明	二六·九×二〇·〇	一三·五×一九·九
									雲上江洲親		之ほか七名 が が が が の 大				不明
辰年	咸豊一〇年(一八六〇	戌一〇月六日~	乾隆六〇年七月						道光一四年六月		卯年八月	嘉慶年			不明
	,	写	写	写	写	写	写	写	写	写	写	写	写	刊	写
久米島具志川間切文書	会所(村学校)の校則 完全本	上・他より久米両間切在番人) 大和御用の綿子について(摩文仁親雲	上納の事について 日用分(銭)出分(銭)上納方は莚類	前地頭代西銘村當歳上江洲親雲上へ	科試案文 宮古島船、唐漂着の時願	島より寄百姓願書 他具志川間切人口減少により、各間切諸	在番源河親雲上~在番慶佐次親雲上	ている。 半部分欠落しているか、綴りは完結し 麻氏田名親雲上真幸の跡目事件 後	け有り □七月廿七日付 西平親雲上の書付	錯節・落丁アリ 蔵元控文書の写カ	訴訟 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	久米島九ヶ村の地方役人より報告在番、検者、さばくり中あての口上覚	「疱瘡伝書」の1部	ル」と記載あり。 後半分欠落 「本書泊村醫者金城筑親雲上宅ニ有	

	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157
親雲上二十五年回御同年年七月廿四日上江洲	口上覚	伊江親雲上宛書状(控)	覚	口上覚	赛写取申候 雍正四年丙午蔵元日記	覚	上党	覚	口上覚集	口上覚、口上書翰等	覚(仕置書)写	覚(御用布綿小莚増代)	口上覚	口 上 覚	口上覚	党 久米島具志川間切口上
	上江洲親雲	上江洌智紀			江洌親雲上											上 上 工 洲 親 雲
	袋	折	袋	袋	袋	袋	袋	他その	袋	袋			袋	袋		袋
	_	_		-			_			六			_	-		
	六		八	六	八		七	<u> </u>			六	八八		八	七	八
	二六·五×一九·五	二六·二×二七·七		□四·○×一八·四	0•t × 1•		二五·四×一九·二	二八・七×二八・〇	二七×九]=×;		二六×二〇	二六×二〇	二六×二〇		
	上江洲親雲							盛永筑登之								
	不明 (甲年)				咸豊二年壬子四月			盛永筑登之 光緒元年一一月二四日							酉	子年
					月			<u>二</u> 四								:
		写		写	写	写	写	写	写	写	1-					
	墓敷証文	一一月九日付	芭蕉紙 ヒモ切れ	芭蕉紙	うち一冊 する記事がみえる。冊数:三冊合冊の する記事がみえる。冊数:三冊合冊の 方を一冊	冊 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	按司ほか。仲里親雲上、西平親雲仲里七月まで。仲里親雲上、西平親雲仲里芭蕉紙。戌九月~亥正月~戌四月~丑	亥年十一月二十四日 一家年十一月二十四日 一家年十一月二十四日					蘇木追加の件	草の件 草の件 蘭	渡海 芭蕉紙 下知役御	年貢の件。 具志川間切より王府への嘆願口上覚

	180	179	178	177	176	175	174	170
***	覚		の覚	覚	覚	覚	表覚	取之人
	覚(惣下知役申付覚書)	覚(惣下知人役職願い)	(御在番代合願書そ	(公務日誌書)	(公務日誌書)	(公務日誌書	Ē	取立帳 取立帳 和立帳 下之時间焼香人□□人数
	知役	知 人	番件	日計	日	(大)	洲江	焼十香三
	一世		合層	書)	書	 *** ***	文文	人年
	見書)	息し	書				(上江洲大文子引付	□ 御 人焼
切(1		子番親方上亀在						数香
切大掟川間	西平親方	子親 東上・ ・ 田 ・ 田 ・ 田 ・ 田 ・ 田 ・ 田 ・ 世 ・ 世 世 世					子工洲脇文	
		上田・城一親者					脇文	
	折	他その	他その	袋折卷	袋巻	折巻	折巻・	袋
	_		-	_	_	-	=	
	-		-				=	八
							-	
	六	崇	=	-	Ξ	=		売
	六•七×五六•○	二六・四×三三・一	二三·八×三〇·四	一·七×約二七·○	二·五×約二四·〇	二・○×約四二・○	三·三×三七·五	川町・O× 川・O
	一 子 ·	=	<u>-</u>	約二十	約二	約四四	三七	=
			KA	Ö	Ö	$\overline{\circ}$	五	0
	西	同					マム	
	西平親方	同 上					一工	
	方						子江洲脇文	
	日年	不明				不明	不明	不
						793		不明(午年)
		(亥年五月)					岩	车
		月					(申六月十九日)	
							É	
	刊	刊	刊	刊	刊	刊	刊	刊
- U	申前付地	連し西名を銘	方方①	之②①	右まと一一①	十国い船④」莚納①	態虫①	
口上覚二五件	た頭時代	でい村出り前	4 図番	之事 ※右端にコヨリ ②堤井修甫日頃之事 ①冬植之芋かつら植	石端にコヨリの こが記されて こが記されて こが記されて 日稲穂祭 日月八日君	十四日とみられる。 困難であるが、残欠 の同月の稲穂祭の口 であるが、残欠 がる。書いた日付は いる。書いた日付は いる。書いた日付は いる。書いた日付は いる。書いた日付は いる。書いた日付は いる。書いた日付は いる。書いた日付は いる。書いた日付は いる。書いた日付は	態にある。虫損・破・	あの
五 件	の上	しの上た	耐③合属	(右端) 大井	コラスに見れている。	このながり 日程におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本におっているが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるが、日本にはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるが、日本にはいるのでは、日本にはいるにはいるにはいるにはいるにはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるのでは、日本にはいるのではいるのでは、日本にはいるのではいはいるのでは、日本にはいるにはいるにははいるでは、日本にははいるにはいるにはいるにはいるにはいはにはいるにはいるにはにはいるにはいるに	る。汚な	時の体
(I)	え洲書報	原番洲文筆報	上日書	温につかっ	のないない。	ので、日程徳の10日代の10日程徳の10日程徳の10日程徳の10日代の10日代の10日代の10日代の10日代の10日代の10日代の10日代	等がが	香
①乾隆七年材木定納	申付た時の覚え書。前地頭代上江洲親雲上を惣下	~ 者雲	事折②	※右端にコヨリの穴アリ 修甫日頃之事 ③御用布 ・ 之芋かつら植付方差引	右端にコヨリの穴がみえる。まとめて、綴られていたと思とが記されている。※覚書きとが記されている。※覚書き一五出帆 四月二九日付 二二日稲穂祭 ③同一三日一二日稲穂のみつかい	十四日とみられる。 一四日とみられる。 一四日とみられる。 一四日とみられる。 一四日とみられる。 一四日とみられる。	ひどの	年忌の時の焼香人ひかえ
七年	を物	田上を地	ロの世	の銀付	() () () () () () () () () ()	ら損が程がになる御	く設計	え
材	下	方管	時介線	グアリアの産品	き、思は以乗事	るたたり カ こる	らがなり	
定納	知役に	連名で出した願文。 したい旨の在番筆者、田地方、在番が 西銘村前上江洲親雲上を惣下知人に	方 ④焼酎同上の事の検の検のをできる。 ③平日や折目の時の検的締の在番代合願書 ②年貢米・綿子の調	之事 ※右端にコヨリの穴アリ ②堤井修甫日頃之事 ③御用布勝負①冬植之芋かつら植付方差引之事	①五月八日君まものみつかい事②同一三日乗船④同一二日稲穂祭③同一三日乗船④同一二日稲穂祭③同一三日乗船④同一二日稲穂祭③同一三日乗船④同一二日稲地祭	①四月におこなわれる御用布調達と取の四月におこなわれる御用布調達と取り、	態にある。 ①引付表に対して ②請取があるが、	
	VC	かに	稍 調	負事	でにこ同同	月読て乗程た用取	状代	

	107	186	185	184	183	182	181
188	187	覚	第 •	覚	覚	覚	
(書礼法伝授)ナ	上覚	<i>y</i> u	・口上覚・言上写		(勤書)		口 上 覚
不明	り、頭中 大さばく り、頭中 大さば、 3 頭中 は、 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	奉高 行· 御物	親雲上他 第二人 上 第二人 一	江洌親雲上 地頭代 上 山間切	上江洌親雲	渠 大 集 大 集 大 集 子 件 生 上 江 洌 現 期 頭 可 利 期 頭	親雲上 ②鉢嶺
袋							
-			<u> </u>				
九	九	九	Ξ	九	0	六	五.
二三·八×二二·〇	二 五 × 九		二六·八×十九·五	••• ×	二七×二〇•五	二五×二七·五	二五× 〇·五
					上江洌親雲		
乾隆二四年三月	戍閩四月~六月	亥九月	亥七月、子八月二六日	巳?九月九日	康熙四〇年代?	<u> </u>	乾隆七年、八年
写	写	写	写	写	写	写	写
上江洲親雲上宛	 ①口上覚→戍園四月□当島に医師が ①の件 ④冠船渡来にさいしての対応 の件 ④冠船渡来にさいしての対応 	の儀。 東漕船作事及び船乗方の儀、上納綿子 悪漕船作事及び船乗方の儀、上納綿子 がといい。 が降出、八年御手形写より写し取る	①覚→地頭代の持村定め②口上党②は②は②は②は○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に○に	久山里之子親雲上 注:康熙年間?↓御評定筆者仲本筑登之親雲上 渡→御評定筆者仲本筑登之親雲上 渡の祖父上江洌親雲上 ③父上江洌親雲上功労(勲功) ①曽祖父西平親雲上	内容は「勤書」	頭) ②牛・馬・豚・羊の売払の件 一書(地間書→朱書 ①御仕分布調方の儀他	「乾隆七年…」は朱書の儀 ②乾隆八年上納積船の儀 年

	203		202	2 20	1 20	00 1	99	198	197	19	96 19	95	194		10	9	100	T 3.2		1 2 -	
	表題なし		拾玉続智恵海				小学句読	(組踊集)	(琉球集)	手紙			手紙	_	手紙		(書簡)	19 當用案二 巻七冊		190書簡案文集(例	189 富川親方あて(書簡)
		-				阿连	東	_		親之	大阿		<u> </u>		<u></u>			₩ ——		(例文集)	
	Z11.		632							親雲上	大田里之子		上江洲親雲		上了沙彩						親雲上 上江洲
	袋	1	袋	袋	袋	袋	\$	袋	袋	巻	折着	\$	巻		———— 他 そ	-		袋	-	袋	堅他 そ の
			_	_		=	: [-	-	-			1				-	+		+		一 一
	一 六		?	?	三六	四三十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	三巻四一丁		二七									二五 (表紙含)	4	一十四(後一丁は別	
	七·四× 〇·	三・五メーグ・〇		三·○×一五·五·	二二·五×一五·五	二五·五×一八·〇			二三·O× 1 木·O	/一七・一×七・七 一七・一×四一・六	一二·七×約二八·〇		一五·九×三八·二		七・ × 八・	- 7: 1	- X - E - C - E - C - C - C - C - C - C - C	二五·八×一九·四		加 二三×十三·五	二〇·三×五八·二
	上江洲智紀	菱屋勘兵衛			浪華書林	有文閣				親雲上	阿や		上江洲親雲		上江洲親雲						上江洲親雲
	上江洲智紀 明治二二年七月	近世	·		文比九手	近世	近世	近世末	G. A. G.						不明				里積記の文章力	後一丁に壬寅年一二月	等 (十二月廿三日)
	写	刊	刊	Ŧ	1	活	写	写		刊	刊		刊	-	刊	写	-	写	写	月	写
雲節、干瀬節、子持ち節、さん山節)	伊野皮玠、本田と市、子鳥市とす、たやで風、くてい節、仲順節、瓦屋節、花一、異見一、孝行一) 琉歌(かぎ花一、異見一、孝行一) 琉歌(かぎ※口説・琉歌集 口説(登一、下一、	生活の知恵ハウツーもの。	生活の知恵ハウツーもの。			「成化癸巳五月一(序)	執心鐘入りと忠臣身替。	かぎやで風節から東細節まで。	送った書状。一〇月二五日付	在職のお礼とお茶一包を上工州見厚工在番職にあった大田里之子親雲上が	内容。阿やから□宛の手紙にたくしてあるので受け取るようとのいらぶ一本と素めん三斤を首里大屋子	出した手紙。出した手紙。	凶について詳細な判所と可語をうと、 をみて、非常に心配になって、その吉 上江洲親雲上の妻が歯が抜け落ちる夢	<u> </u>	の塩川與人(大浦與人)こ付して、手前地頭代の上江洲親雲上から宮古島		丁欠落か。 朱書アリ			書簡列文こよ界が入っている	冨川殿内 □□取次衆 あて

212	211	210	209	208	207	206	205	204
伊勢兵部異見状	方師三字経童子訓雲上 御物奉行安里親雲上 御物奉行安里親雲上 御物奉行安里親宗上 御物奉行安里親	(問付返答尋問書)	(勤星帳)	(御忰者定)	小學讀本卷二	小學讀本卷四	地理初歩	地祖改正談
	人 関 東 離 主	不明	不明	不明	輔範学校編	校正) 那河編輯、 明一中誉 福丰、	纂 師範学校編	助校閱 者·仲吉朝 大城朝詮纂
	袋	袋	袋	袋	袋	袋	袋	他その
					-			_
Fi.	不能	一九(内二八枚墨	五.	四	三四	· !! 	=	夏数二五〇
二六·五×二〇·〇	.:::·±×1★•O	二三·六×一八·二	二七・一×一九・一	二四·九× 一八·六	二二·三×一四·八]]:	- •四× 四•七	110.0×1 E.E
	皇都双額堂	不明	不明	不 明	山中市兵衛	山中市兵衛	山中市兵衛	
寛永一六年六月二日	天保一三年	不明(子年)	欠	雍正二年正月十八日		明治一二年五月	明治七年八月改正	明治二八年一〇月
写	刊	写	写	写	刊	刊	刊	活字
	「三字経抄」「三字経抄」	地掟への下知方・行跡に付糾明一件 同間切仲地村未進物太分に付、仲件 同間切仲地村未進物太分に付、仲本 三記仲村渠と同意し百姓召遣い非法一件 大黒 高川間切仲村渠掟の儀間にやに来具志川間切仲村渠掟の儀間にやに 馬艦船頭金城による打擲の一件 久	乾隆七年から同二四年までの勤星あり上江洲親方雲上智□の勤星帳か?	行より久米具志川間切両惣地頭衆宛南属 $(二人)$ 」までの規あり、御物奉河の、二かや田あむ $(二人づつ)$ 、君司(六人)、伊平屋あむかなし(二人グつ)、親方部(一〇人づつ)、申口(七つ)、親方部(一〇人づつ)、三司官座敷 $(一人づ石)$ 、按司部 $(1-1)$ 、三司官座敷(一人づ石)、三司「中城御殿(五〇人)、思子部(二五「中城御殿(五〇人)、思子部(二五	※表紙欠			治二一年五月二二日)の別刷※表紙欠 ※「沖縄県諭達第一号」(明

225	224		222			219	218	217	216	215	214	213
弐さつ之内 聞書写	孝女傳	表題なし	表題なし	表題なし	伊呂波	久米嶋三島論	表題なし	沖縄対話	(馬見様之事)	表題なし	(忠臣身替)(八重瀬)	表題なし
門議良権左衛		雲洞僧正			盛永某			課網界学務	# <u># # 7 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 </u>			
袋	袋	他その	袋	袋	袋	袋	列もかと	袋	袋	袋	袋	袋
	-	_	-	-	-		_	-	-	-	_	
四五丁(白紙一丁)二五·五×二〇·三	八		約三〇	10	==	約二〇	七	五一	1 111	0	九	
二五・五×二〇・三	二七·三×11〇·四	三〇·四×二三一·五	二六·七×一九·〇	二五·四×一九·三	110.0×111.11	□五・○×一七・○	二五·七×一九·○		□五·五×□□·○	11七·三×110·0	二四·O×1七·O	三五· · 五 × 二〇· 五
雲上)		盛永にや				某者 山里						
(甲十日六日)	同治四年九月	寛政五年			咸豊九 年	同治二年	近世	明治一五年	近世末	同治年		
写	写	写	写	写	写	写	刊	活字	写	写	写	
市場では、		<u></u> 儀	※琉歌集(節名を記す)	和哥	未中春中旬/伊呂波/盛永誌とある。 イロハの古用。 表紙に「咸豊九年己	る。 嶋三島論/西銘村垣花ノ/山里」とあ 裴紙に「同治二年癸亥仲夏吉且/久米	者らしい人の文字あり。 法帖か。陰刻石摺版 「咸豊」と所有		孫左衛門尉清雄」とある。 秘伝書。「元禄六年癸酉七月十日禰寝	として得た詩文等をまとめたもの。湾朝保ら当時の文人詩人らに贈返礼同治八年、上江洲翁が茶を富川盛・宜	西銘村上江洲ノ内間仁屋」とある西真加良/同治八年八月且/掟差/芭蕉紙、 残欠 表紙らしいものに「仲	明」 平後各書、記について書いてある。中 平後各書、記について書いてある。中

241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226
名刺〔木製〕	(里程図)	損益争論他2件	表題なし	表題なし	表題なし	問答書	中国年号帳	上江洲親雲上御頂ヶ 久米具志川間切平良辻	表題なし	表題なし	表題なし	(案文集ヵ)	(例長ヵ)	表題なし	親雲上 久米島上江洲
								上 上 江 洲 親 雲	上江洲親雲						
他 そ の	他その	袋	袋	袋	袋		袋	他 そ の	他その	他その	袋	袋	他その	袋	袋
=	_		_	_				_		_ <u>-</u>					
						11	四	八	三	=	=	三一丁・白紙一丁	ष्ट्र	<u>151</u>	
一 五 四 × 四 〇	二八·二×三五·〇			1000000		二四×一九·五	七× 1		二六·九×一九·三	二六・〇×一九・〇	二三·六×一六·四	ニ六・七×二〇・三	一四·八×五三·五	二六×一八·三	三三×一五
									上江洲親雲						
								乾隆一〇年	道光一七年	未一二月一〇日~甲一 一二月一〇日~甲一	卯□□一二月				
_	写	写	写	写	写			写	写	写	写	写	写	写	写
志川間切 御取次衆 盛永筑之御茶 壱箇 (表)西平殿内 久米具取次衆 盛永筑登之 (裏)七月日取次衆 盛永筑登之 (裏)七月日	島尻、国頭、離島の里程を示す。那覇を中心とし、泊、首里、浦添ほか	他一、半山茶製法仕様聞書 二、勤書	漢書、書翰案文等 □生文書 芭蕉紙	度与之心遣可有之義~三丁 致了簡夫々生道耳取行各家跡致補佐	上世文書用語(ルビ付)某	稽古用問答	南宋乾道~咸豊までの年号一覧帳	針図帳(竿入帳)□土手石	正統嫡々へ相談すること。 し原ちよやえ事田方三ヵ所は、子孫々あし川原・はけたけ原・小名○○んま	いて 琉反物 (久米島紬カ) の薩摩上納につ	模り通り具志川より仲里へ。 方。具志川間切四分·仲里間切六分御御改倹者が久米島滞在中の対応の仕	錯簡・落丁アリ	渡候條々」「諸雑物入之條々」倹約令ヵ所」あり 「御欠略ニ付諸間切諸嶋申後に{卯七月十日 御物奉行 評定	頭。案文かあるいは扣か。 「頭。案文かあるいは扣か。 「対したいない。」 「対したいであった在番を去二一年(乾隆か)年 「対したい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」 「はたい。」	表紙一枚

248	247	246	245	244	243	242
(天気見様書)	文躰本意損益之不審書	方 方 清 道 光 拾 年 庚 寅 六 月	萬聞書	天文考	地籍図	久米島全図 (他)
不明	(写) 洲智源	村渠にや 之三男 仲 の の の の の の の の の の の り の り の り の り の				
袋折	袋	袋	袋折	袋	他その	他 そ の
-	_		_		五.	_
四	約二三 三	五.	=	二四		
十一·八×二五·三	二七・五×一九・九	二六·五×一九·五	五×一三・〇	一八·〇×一三·五		五五·〇×七七·〇
	上江洲智源 高	仲村渠にや				
	乾隆二八年(一七六三)	仲村渠にや 道光一〇年		不明		
刊	写		写	写	写	写
の一部であろう。 断片だと思われる。他の整理した文書	完延三年(一七五○) 平常孝より当山 寛延三年(一七五○) 平常孝より当山 寛延三年(一七五○) 平常孝より当山 東田 一、筋之連続・言葉之連続 一、言葉之働・筋働 一、花實 一、 前江事分ケ後ニ事分ケ		文書が収録されている。 下芋の作様・貯方などについて在番か		原) ⑤大田村字瀬口原(第一一号)の大田村字清水原(第一号と一ノ号)の大田村字清水原(第一号と一ノ大田村字川畑原(トヤノ原)③、上江大田村字川畑原(トヤノ原)③、上江洲村字山口原(第三号)②、	(裏)七月十日 御茶 壱箇 (裏)七月十日 御茶 壱箇 (裏)七月十日 御茶 壱箇 (東) 大田村字加佐瀬原(第一二号) (東) (東) (東) (東) (東) (東) (東) (東) (東) (東